

(特) そばネット埼玉に対する質疑応答・講評

【質疑応答】

(片桐委員)

市民の生活にとけ込んだ市民活動の視点を忘れず、アマチュアリズムを維持して今後も活動が続けてほしい。

(発表者)

楽しさを忘れず、市民活動の原点を忘れずに活動が続けていく。

(野島委員)

趣味的な活動であっても一つの生活文化であり、文化を育てることもNPOの重要な取り組みである。一方で、こうした活動を継続していくための会員のモチベーションなど、今後の展開、戦略について聞きたい。

(発表者)

趣味を生かした社会貢献活動が団体の原点である。そのため団体の活動自体が会員のいきがいであり、継続のモチベーションとなっている。今後は、指導者派遣を多くの主体から要請されているので、高価なそば打ちの道具や移動するための車を団体で用意することで、広域の活動を進めていきたい。

(村重委員)

大人向け・子ども向けの食育活動を期待したい。

(発表者)

食育という視点で活動を行うことも団体の課題のひとつとして捉えている。今後、課題をひとつひとつ解決していき普及活動を行っていきたい。

(粉川委員)

大規模マンションなどは、コミュニティの希薄化が課題となっている。そば打ちは、家族内、家族間のふれあいのよい契機となる。地域づくりという切り口で政策提言を行っていくとより団体の活動に深みが出る。

(発表者)

地域に根ざした活動を進めていきたい。

【講評】

(野島委員)

この事業は、そばの消費地である埼玉県で、そば食文化を広めるのがねらいである。その際、当NPOでは、民間・市民の手でそば食の文化を高い水準で維持することが重視される。本物のそばを打ち、本物の麺つゆで食べるという食へのこだわりが、今回のそば打ち指導者養成事業全体を貫いて見えてくる。

「伝統食」といわれる「そば」には、当然、伝統として、打ち方の作法や格式があるだろう。そうしたものをむやみに削ぎ落とすことなく、そばの楽しみ方の一部として伝承してほしいと思う。そば打ち指導者の養成に期待するものは大きい。

(片桐委員)

各地で開かれる市民活動団体のイベントに参加要請が多くあると思いますが、気楽に、気安く参加するグループであって欲しいと望みます。

(宮本委員)

そば文化の普及に対する熱意を感じた。食育講座の普及ぜひ拡大を。

(真下委員)

今後も趣味にとどまらず、幅広く活動を考えていただけるとのこと、是非いろいろな展開をお願いします。